

児童朝会 校長の話 2月21日

冬季北京オリンピックは、昨日閉会式が行われて閉幕しました。たくさんの選手が活躍しましたが、皆さんはどんな選手が心に残っていますか。私が心に残った選手を4人紹介します。



まず、平野歩夢選手です。スノーボードハーフパイプの決勝で2本目までの成績は2位につけていました。そして迎えた最後の3本目、トリプルコーク1440をやりました。これは世界でまだ誰も成功していない技です。1440とは1440度のことです。初めに横半回転で180度、次に縦回転を3回で360×3、最後に横半回転で180度。全部たして1440度です。更にエアー全てに最高難度の技を揃えて飛びました。そして見事成功して金メダルを取りました。最後まで全てを尽くして挑戦する姿に感動しました。

次はスノーボードスロープスタイルの岩淵麗楽選手です。決勝の2本目までで4位でした。最後の1本に縦3回転を飛びました。これは女子選手で、世界でまだ誰もやっていない大技です。その大技に挑戦したのです。残念ながら着地で転んでしまい、4位に終わりました。けれども、ゴールした後、世界中の選手が岩淵選手にかけより「よく挑戦した」と称えました。IOCのバツハ会長もその挑戦の素晴らしさにスイス製の腕時計をプレゼントしたそうです。



次はフィギュアスケートの羽生結弦選手です。2回オリンピックで金メダルを取って

ますから3連覇がかかっていました。羽生選手は5年前から4回転半のジャンプに挑戦していました。世界でまだ誰も成功していないジャンプです。ずっと挑戦し続けて当日も挑みました。着地で転倒してしまい成功することはできず4位になりました。自身で「全てを尽くして努力してきた。でも報われない努力だったかも知れない。」と話していました。それでも「これからも自分にしかできない演技を追求し続けていく。今は今で幸せです。」と言っています。



努力し続けてきたことが、報われないこともあります。それでも全てをかけて挑戦することは尊いですね。



最後に、スピードスケートの高木美帆選手です。このオリンピック全部で5種目に出場しています。3000m、1500m、1000m、500m、団体追い抜き。団体追い抜きでは、勝てば金メダル負ければ銀メダルという決勝戦。最後の1周までタイムで勝っていました。それが最後のコーナーで高木美帆選手のお姉さんの高木菜那選手が転んでしまいました。結果は2位です。表彰台で泣き崩れるお姉さんを、高木美帆選手が支えていますね。

ていますね。

そして高木美帆選手は最後の1000mに出場しました。オリンピックで7レース目になり、身体はボロボロで限界の状態だったそうです。そしてなんとオリンピック新記録で金メダルを取りました。「たとえメダルが取れなくても、全て自分を出し切った。それで形に残ったので嬉しい。」と話していました。

努力を重ねて最後の最後まで挑み続けています。結果は上手くいく場合もあるし、いかな
い場合もあります。けれども失敗を恐れず挑戦し続ける姿が本当に素晴らしかったです。選
手たちからたくさんの勇気と感動をもらいましたね。北京オリンピックは終わってしま
いましたが、来月からはパラリンピックが始まります。また、たくさんの選手の活躍が楽しみ
ですね。